

建築アーカイブの魅力 (CBRD NewsLetter 5号/2008.11.30)

—日本最初の鉄骨造「秀英舎印刷工場」の焼失—

著者 学術会員 清水健次

秀英舎印刷工場は 1894 年に竣工したが、竣工後 16 年後の 1910 年 4 月 25 日深夜に、煙草の火の不始末により火災を起し、事務室の一部を除くほか全焼してしまった。明治 43 年 4 月 27 日付け『東京朝日新聞』では、本舎の失火について、次のように伝えている。

同夜は 60 名が夜業に従事していたが、深夜 1 時頃紙屑捨場より黒煙が濛々と立ち上がり近寄ることもできなかった。

油やインクの滲み込んだ紙は、たちまち燃え上がり、天井を貫いて 2 階 3 階と突進し、ガスを溶かし、更に火勢を増して瞬く間に 130 坪、3 階建ての工場が全焼した。消防署からは、蒸気脚筒 10 数台が駆付け、濠の水を利用して消火に当たり、同 2 時 15 分によりやく鎮火した。

焼け跡は、鉄骨が歪み曲り、鉛製の活字は溶解して焦土の間に銀色に光り、中には天井から氷柱のように垂れ下がっているものもある惨状であった。

秀英舎本舎の再建

本舎の再建工事は、直ちに行われ、翌 1911 年 11 月に落成している。新築社屋は、耐火を重視して、北田九一氏が設計した。建坪延べ 900 坪、3 階建て、鉄骨煉瓦造、床は RC 造であった。2 階の大部分はコンクリート構造の耐火床とし、紙庫および紙型庫には、北田式防火設備が施こされた。

再建された新社屋は、1923 年 9 月 1 日に起きた関東大震災で被害を受けるまで銀座のシンボルとして存在した。

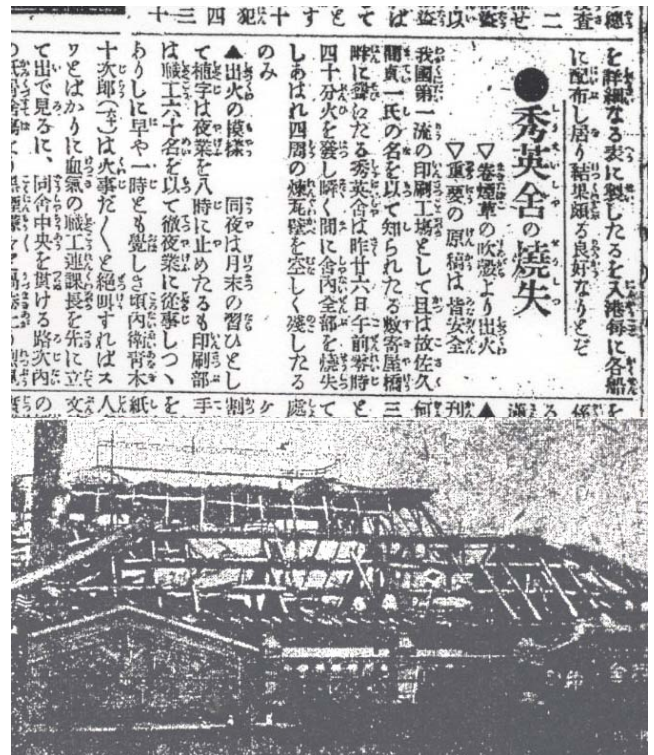


写真 1 秀英舎の消失を伝える東京朝日新聞の記事 (明治 43 年 4 月 27 日)



写真 2 秀英舎印刷工場 - 1894 年



写真 3 再建された秀英舎印刷工場 (1911 年 版画-筆者)